

落葉病(円星落葉病、角斑落葉病)

<円星落葉病>

英名 : Circular leaf spot

病原 : *Mycosphaerella nawae* (子のう菌類)



円星落葉病、葉の病斑



被害樹

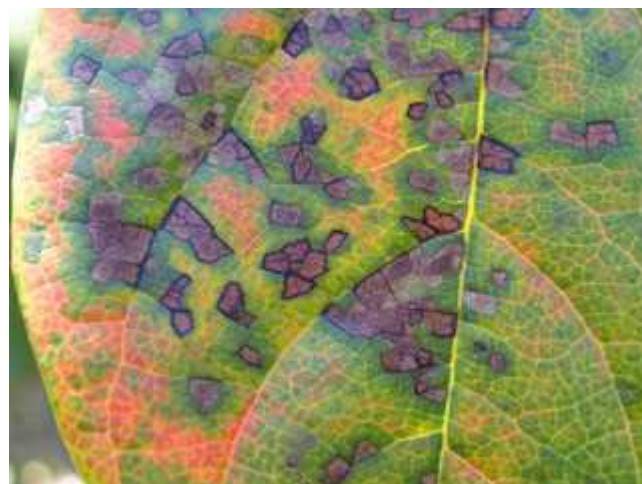
<角斑落葉病>

英名 : Angular leaf spot

学名 : *Cercospora kaki* (不完全菌類)



葉裏の症状



葉に周囲が黒色の多角形または不整形の褐色病斑を形成し、古くなると表面に小黑点を生じる。

生態と防除

発症部位 : 葉

発生の経過 : <円星落葉病>

落葉の病斑組織内で越冬し、5月頃になると子のう胞子が飛び出し、葉裏気孔から感染する。主感染時期は5月上旬～7月上旬。

二次感染は見られない。

<角斑落葉病>

罹病落葉内で越冬した菌糸から5～6月に分生子が形成され、その分生子が主要な伝染源となる。

発病葉上の病斑に形成された分生子は、二次感染を繰り返す。

発生時期は円星落葉病よりも早い。

発生しやすい条件 : 主感染時期の5月上旬～7月上旬に降雨が多いと発生が多い。
また、窒素肥料の不足や干ばつ、長雨などで根が障害を受けると多発しやすい。

防除 : 秋～冬に園内の落葉処理を行って伝染源を除去する。
樹勢が弱ると発生の誘因となるので、適正な肥培管理に努める。
5月～8月に定期的に薬剤散布を行う。